

中国戦闘機が頻繁に台湾東岸方面に進出

漢和防務評論 20180306(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

昨年 11 月から 12 月にかけて中国軍機の活動が活発で、統合幕僚幹部のホームページにも公表され、一般の新聞にも掲載されました。
漢和の記事は、中国機の台湾東岸への接近飛行の目的を指摘しており、台湾統一の最後の手段としての武力侵攻の演練であろうと見ています。
台湾の新聞に、中国軍機のパイロットが迎撃した台湾空軍のパイロットに直接音声で逆警告？したとの話が掲載されていますが、言語が同じなので、ありうる話かと思います。
かつて迎撃した中国空軍戦闘機パイロットが空中で米軍機に対して操縦席から自分のメールアドレスを掲示したとの記事を読んだことがあります。このパイロットは後に米軍 EP-3 に追突して殉職したのではないかと。
かつて中国空軍には規律の緩みを指導できない体質がありました。今はどうでしょうか？

2017 年 12 月、中国空軍機は、何度も台湾東岸方面に進出した。最初にその動向を見る。12 月 9 日午後、台湾国防部は、「早朝中国空軍の H-6 等、各型機が、SU-30 戦闘機の掩護の下、宮古海峡を經由して列島線を通過し、西太平洋海域で遠距離訓練を行った。その後、元のコースを通過して帰投した」と公表した。同日夕方、日本の防衛省統合幕僚監部（参謀本部）はホームページ上で公表した。このときに列島線を通過した中国機は全部で 4 機で、H-6K は機体番号が 20116 であることから、航空兵第 10 師団の所属機であった。別の 1 機は「高新 3 号」計画で改装された Y-8 型電子戦機であった。中国空軍が自ら公表した写真は：2 機の SU-30 で護衛され、機番号は 62301 であった。

12 月 7 日の台湾「蘋果日報」によると、中国空軍爆撃機は東海岸に接近し、台湾 F-16 戦闘機の追跡を受けると、中国機パイロットは、コールサインをつけて”我は中国人民解放軍である。貴機は、私の飛行安全を侵害している。直ちに離れなさい。そうしないと貴機は一切の責任を負うことになる”と送信してきた。

11 月 23 日、H-6K（41075 号機）は宮古海峡を通過した。防衛省は写真を公表した。SU-30 の護衛はなかった。H-6K は山西省臨潼基地の航空兵第 36 師団所属機であった。同師団は H-6K に換装した際、習近平の視察を受け、ニュースになった。台湾国防部が述べた SU-30 は、様々な時刻に、何度も現れ、一定の距離を保ち宮古海峡に進入している。

2 回の H-6K の飛行の相違点は、航空兵第 10 師団の 20116 が 2 発の KD-20 型巡航ミサイルを携行していたことである。

11 月 18 日、1 機の TU-154 電子偵察機が東シナ海を経て宮古海峡を通過し南下し、時計回りに台湾を一周した。

11月19日、H-6K爆撃機4機、Y-8電子偵察機1機及びTU-154電子偵察機1機が東シナ海を経て宮古海峡を通過し東経129度の線まで飛行した後、引返した。台湾東岸からの距離は約250KMであった。

11月22日、台湾立法院外交国防委員会で国防部長馮世寬は証言し、中国空軍機が何度も海上に出てきたことを認めた。彼は、立法委員に回答した際に、次のように述べた：中国空軍機はバシー海峡を通過している。それは爆撃機、電子偵察機だけでなく、戦闘機、空中給油機が含まれる。機数はほぼ10機以上であり、極めて実戦的な攻撃コースの準備をしているように見られる、と述べた。空中給油能力のある多用途戦闘機は、現在J-10シリーズ、SU-30シリーズ、J-16シリーズがある。中国空軍は、ウクライナの空中給油機をすべて入手した。その上、さらに新たに給油機を購入しようとしている。

11月23日夕方、台湾国防部は、爆撃機、戦闘機、電子偵察機、空中給油機等、多数の機種を含む中国空軍機がバシー海峡を通過し、遠海飛行訓練を行ったことを公表した。同時に、1機のY-8電子偵察機がバシー海峡を通過し、台湾東方を北上、宮古海峡を回って、反時計回りに台湾を一周した。バシー海峡からフィリピン本土の最も幅の広い地区までの距離は355KMある。

同日、日本の防衛省は、中国空軍機の活動記録を公表した。上述のY-8だけでなく、別の4機のH-6Kも、東シナ海を経由し宮古海峡を通過して訓練を行った後、元のコースを通過して帰還していた。言い換えれば、当日、台湾南北から東部まで中国空軍機群が飛行したことになる。しかもまる一日で。

12月7日の夕方、台湾国防部は、「中国空軍機H-6等各型機が宮古海峡及びバシー海峡をそれぞれ分かれて通過し、鵝鑾鼻東南方の西太平洋に向かい、海軍各型艦艇と海空対抗訓練を行った」ことを公表した。やや遅れて日本は、「4機のH-6爆撃機と1機のY-8海上パトロール機が東シナ海を経由し宮古海峡を通り、西太平洋に入り、その後元のルートを辿って帰投した」ことを公表した。日本側の写真でははっきり識別できる。これらの機体は海軍航空兵第6師団第17連隊のH-6G（機番号81312）であり、所属基地は江蘇省常州である。

これらの訓練の目的は、きわめて明確である。政治目的としては、当然威嚇である。今後も頻繁に行われるであろう。軍事目的は、台湾統一の最後の手段としての台湾武力侵攻の演練であり、一旦武力侵攻を発動した場合、東海岸への長距離巡航ミサイル攻撃が行われる。

現在のこれらの訓練は、軍事的に見れば、象徴的な訓練に過ぎず、たとえSU-30の掩護機が随伴したとしても、H-6Kは容易に発見され、迎撃される。一旦開戦となれば、H-6KはF-16戦闘機の作戦半径外から巡航ミサイルを発射しなければならない。これが中国空軍の訓練目的である。したがって、今後H-6Kは、ますます台湾東海岸から離れるであろう。このほか訓練の度に電子戦機を随伴している。電子偵察をしながら、一方で必要ならば電子妨害を行う。

以上